

高齢者福祉展開に向けた地域施設の有する多機能性に関する研究

多機能性 地域施設 日帰り温泉

正会員 ○ 黒木 宏一*

図書館 公民館 コミセン

■はじめに

「2025年問題」が叫ばれて久しい今日、高齢者の暮らしを支える施設環境を整備することはもとより、高齢者施設の量的な整備だけでなく、高齢者個々が持つ自律的な暮らしを支える補完的な福祉環境整備を検討することも、重要な課題である。

本研究は、地域施設が高齢者の暮らしを支える補完的な機能を有するかを検証することを目的とし、高齢者の利用実態、具体的な過ごし方を捉えつつ、各施設の特性を明らかにし、高齢者福祉を補完する機能性について検証する。

■調査概要(表1)

高齢者の日常的な暮らしに密着した地域施設という観点から、「日帰り温泉施設」、「図書館」、「公民館・コミュニティセンター(以下、コミセン)」の3施設を選定、新潟県、熊本県の2県を対象に、施設の概要、利用者の世代や利用状況を把握するアンケート調査を実施した(2015年4~5月)。調査概要は表1に示す。

■日帰り温泉施設における利用特性(図1~3)

①世代別の利用状況: 図1は、日帰り温泉施設における世代別・属性別の利用状況である。世代別では、小学生~高校生の利用は、平日、休日、盆・正月(長期休み)において利用はほとんど見られない。20~50代の若年から壮年世代の利用では、平日よりは、むしろ休日、長期休みでの利用が顕著で、長期休みでは全体の5割、子供連れも2割である。高齢者世代では、逆に平日の利用が多く、全体で7割強を占める。高齢者世代の利用を属性別にみると、平日では単身高齢者(28%)、高齢者夫婦(26%)の順に高い。長期休みでは、単身、夫婦の利用が減少し、逆に孫連れの割合が高くなる傾向にある。

②常連客にみる利用: 図2は、週1回以上の利用者属性を示したものである。全体的傾向は、高齢者の単身利用(75件)、高齢者夫婦の利用(66件)、20~50代の単身の利用(52件)の順に多い。特に、高齢者単身利用では、自宅入浴の代わりに毎日利用する、日々の日課としての利用も見られる。

③高齢者の利用特性: 図3は、高齢者の利用や過ごし方に関する自由記述を類型化し、カウントしたものである。地域の知人・友人とのふれあいの場としての利用が34件と最も多く、銭湯的な日常利用(12件)、孫などと一緒に訪れる(12件)の利用が見られる。また、食べ物を持ち寄っての利用(寄り合いの場としての利用)、長時間滞在の利用も見られる。

日帰り温泉施設では、平日の単身高齢者の利用の多さと

相まって、「日常的な通いの場」としての機能を有している。加えて、平日、休日、長期休みと、利用の世代が変化し、「多様な世代と気軽に触れ合える場」となっている。

表1. アンケートの配布・回収状況

対象施設	対象エリア	回収数/配布数	回収率
日帰り温泉施設	熊本県	31 / 128	24%
	新潟県	66 / 132	50%
	合計	97 / 260	37%
図書館	熊本県	27 / 48	56%
	新潟県	59 / 89	66%
	合計	86 / 137	63%
公民館・コミセン	熊本県	24 / 64	38%
	新潟県	96 / 155	62%
	合計	120 / 219	52%

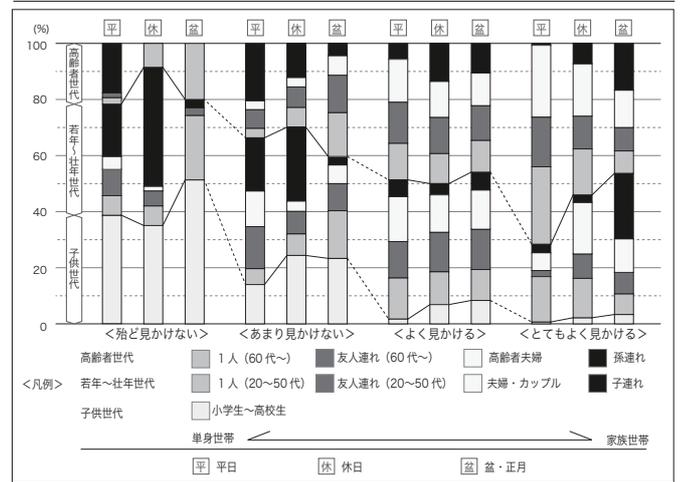


図1. 世代別・属性別利用状況(日帰り温泉)

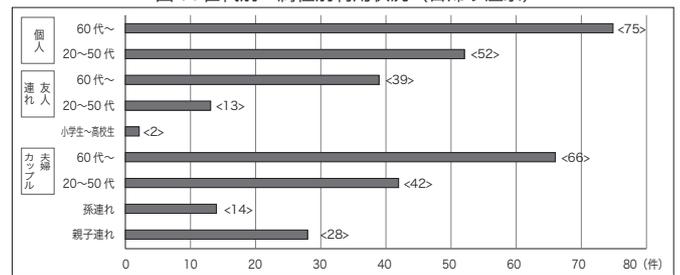


図2. 週一回以上利用者の属性(日帰り温泉)

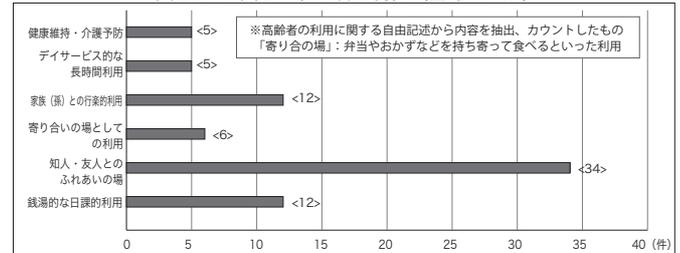


図3. 高齢者の利用の特徴(日帰り温泉)

■図書館における利用特性（図4～5）

①年代別にみる利用状況：図4は、年間の世代別利用割合、利用頻度、滞在時間の傾向を示したものである。10代や20～30代では、他の世代と比べると利用頻度が低い。40～50代では、21～40%の利用が7割強を占める。60代では、41～60%の利用が2割程度で、他の世代と比べて最も高い。週一回以上の利用がある世代は、10代～50代では、ほぼ同じ割合で4割程度であるが、60代以上では、9割を占める。滞在時間の長い利用も、60代が顕著である。高齢者の利用は、年間を通じた利用の多さ、日常的利用、滞在の長さといった特徴がある。

②高齢者の利用内容：高齢者の利用で最も多いのが、新聞・雑誌の閲覧（63件）、ついで本の貸し出し（38件）、調べ物・学習・研究（20件）である。新聞・雑誌の閲覧では、毎日朝刊や夕刊のチェックを行う、調べ物・学習・研究では、資格を取るための受験勉強、講座への定期的な参加といった利用もある。

図書館では、毎日の利用、長時間滞在、学びの場として利用が見られ、「日々の日課の場」・「生涯学習の場」としての機能が確認される。

■公民館・コミセンにおける利用特性（図6～8）

①団体別の利用状況：図6は、各団体の年間の利用状況を示したものである。最も利用が多い①では、サークル団体が8割程度を占め、ついで利用頻度が高い②では、その他の住民団体が5割を占める。サークル団体、その他の住民団体の年代別内訳は10～50代では、利用はほとんどみられないものの、60代では61%以上の年間利用が6割を占める。その他の団体も同様に、60代の高齢者の高い利用傾向を示す。

②活動別・世代別の利用状況：講演会・集会、講座・学習、サークル・同好会の3つの項目で、どの年代の参加・利用が多いかを示したものが図7である。どの項目も、10～30代では、ほとんど利用がみられない。40～50代では、講演会・集会での利用が61%以上で4割強、その他の項目もそれぞれ3割程度を示す。60代以上では、どの項目も高い参加・利用を示し、特にサークル・同好会での利用が顕著で、61～80%が7割程度、81～100%で3割を占めている。

③定期的な活動と世代の内訳：週一回、月数回、年数回と、定期的に利用している年代と、その内容をカウントしたものが図8である。世代別では、60代以上の利用が109件、ついで10代から高齢者まで、多世代のグループの利用が39件、40～50代での利用が30件である。60代では、サークル・同好会での利用がもっとも多く65件、ついで講座・学習・教室が35件であり、サークル活動、講座・学習といった学びの活動が顕著である。

公民館・コミセンでは、高齢者のサークル・同好会の活動、定期的な利用、講座・学習の場としての利用など、「高齢者同士の活動の場」、「学びの場」として機能している。

■まとめ

地域施設は、既存機能だけでなく、高齢者の暮らしを

支える福祉的視点からの機能も有する。これらの機能は、自立した高齢者の暮らしを支え、かつ豊潤化させる可能性を有し、地域施設の福祉展開が、これからの高齢者福祉を考える上で重要な切り札の一つとなりえる。

本研究は、H26～28年度科学研究費補助金（若手B）「高齢者施設・地域施設における機能拡張性・機能代替可能性に関する研究」の成果の一部である。

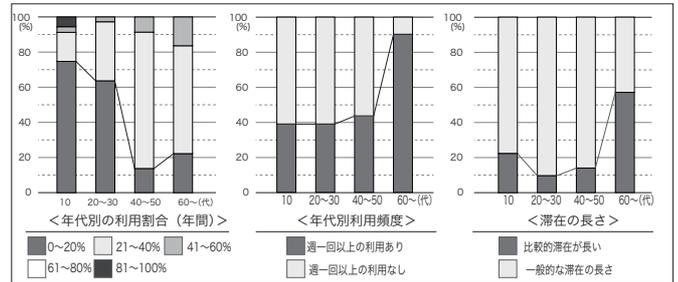


図4. 年代別の利用状況（図書館）

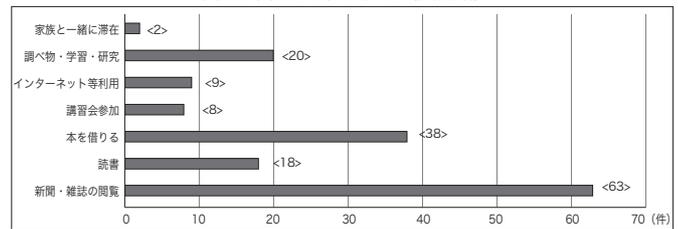


図5. 高齢者の利用内容（図書館）

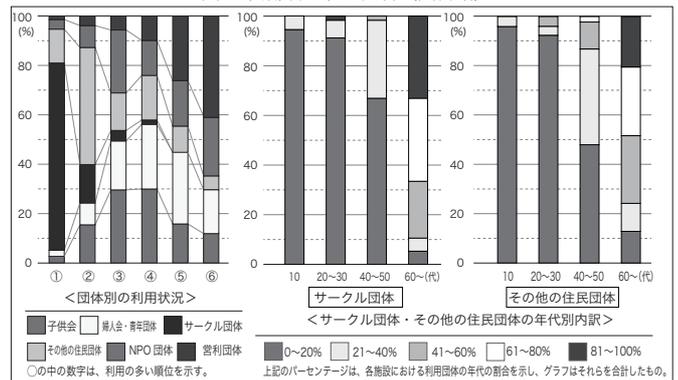


図6. 団体別の利用状況（公民館・コミセン）

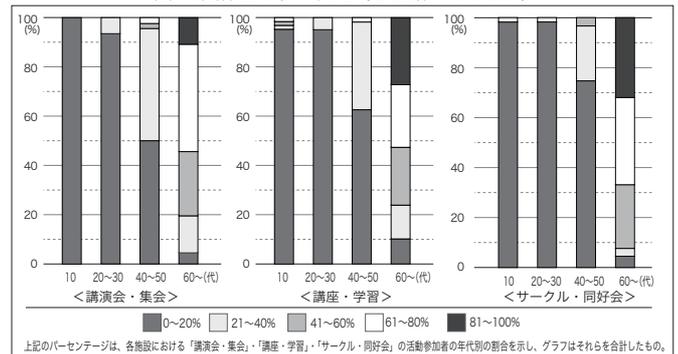


図7. 活動別にみる参加者年代の内訳（公民館・コミセン）

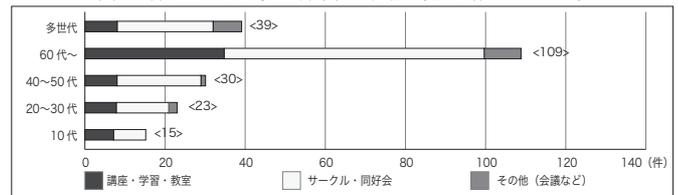


図8. 定期的な活動と世代の内訳（公民館・コミセン）

* 新潟工科大学工学部 建築学科 准教授・博士（工学）

Associate Professor, Department of Architecture, Faculty of Engineering, Niigata Institute of Technology, Dr.Eng.